

## <対策のポイント>

水田農業を輸出や加工品原材料等の新たな需要拡大が期待される作物を生産する農業へと刷新（リノベーション）するため、**実需者との結び付きの下で新市場開拓用米等の低コスト生産等に取り組む生産者を支援**するとともに、**需要の創出・拡大に向けた実需者の製造機械・施設整備等を支援**します。

## <事業目標>

- 実需者との結びつきの下で、需要に応じた生産を行う産地の育成・強化
- 農林水産物・食品の輸出額の拡大（2兆円〔2025年まで〕、5兆円〔2030年まで〕）

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

### 【水田リノベーション産地・実需協働プラン】

- ✓ 産地と実需者が連携し、新市場開拓用米や加工用米、高収益作物、麦・大豆、子実用とうもろこしについて、新たな需要拡大のために必要な生産対策や需要の創出・拡大に係る取組内容、目標等を盛り込んだ計画

- 1. 実需者ニーズに応えるための低コスト生産等の取組支援 41,000百万円**  
水田リノベーション産地・実需協働プランに参画する生産者が、実需者ニーズに対応するための**低コスト生産等に取り組む場合に、取組面積に応じて支援**します。

対象作物	助成単価
新市場開拓用米、麦、大豆、 高収益作物（野菜等）、子実用とうもろこし	4万円/10a
加工用米	3万円/10a

- ※1 令和4年産の基幹作が対象です。
- ※2 農業者等が実需者と販売契約を締結する又はその計画を有している必要があります。
- ※3 高収益作物及び麦・大豆については、加工用等の用途指定があります。
- ※4 本支援の対象となった面積は、令和4年度水田活用の直接支払交付金の戦略作物助成（加工用米、麦、大豆、飼料作物（子実用とうもろこし））及び都道府県に対する産地交付金の取組に応じた追加配分（新市場開拓用米）の対象面積から除きます。

- 2. 需要の創出・拡大のための機械・施設の整備支援 1,000百万円**

- ① 需要の創出・拡大のための機械・施設の整備支援**  
プランに参画する実需者が、輸出等の需要に応じた**加工品の生産体制の強化や国産原材料への切替えのために必要となる機械・施設の整備**を支援します。  
（補助率：1/2以内）

- ② 新市場開拓に取り組む実需者による施設整備等支援**  
**新市場開拓用米の複数年契約**を産地と結び、輸出等に取り組む実需者による**保管施設の整備等を支援**します。（補助率：1/2以内）

- ※ ①②とも、事業実施主体は農林水産物・食品輸出プロジェクト（GFP）又はコメ海外市場拡大戦略プロジェクト（KKP）に加入していることを要件とします。

### 実需者ニーズに応えるための低コスト生産等の取組支援

新市場開拓用米、加工用米

高収益作物、子実用とうもろこし

麦・大豆



[例] 直播栽培



排水対策



土壌診断に基づく施肥

### 需要の創出・拡大のための機械・施設の整備支援



[例] 輸出向けパックご飯の製造ライン増設



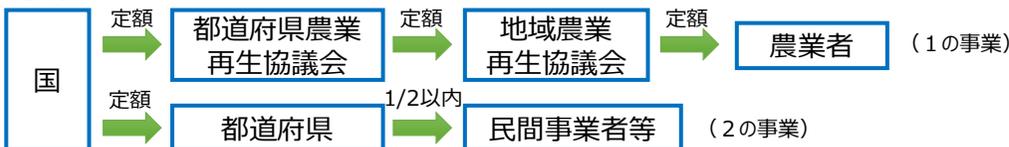
冷凍野菜製造ラインを国産野菜仕様に切り替える改修



新市場開拓用米等の保管倉庫の整備

- 【お問い合わせ先】
- (1の事業) 農産局企画課 (03-3597-0191)
  - (2①の事業) 穀物課 (03-6744-2108)
  - (2②の事業) 企画課 (03-6738-6069)

## <事業の流れ>



# 麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト

【令和4年度予算概算決定額 100(100)百万円】

(令和3年度補正予算額 3,250百万円)

## <対策のポイント>

麦・大豆の需要を捉えた生産の推進により国産シェアを拡大するため、作付の団地化と営農技術の導入、農業支援サービスの活用等による産地の生産体制の強化・生産の効率化を支援します。あわせて、作柄変動の大きい国産の供給力を安定させるため、民間保管施設の整備や一時保管により安定供給体制を確立します。

## <事業目標>

- 小麦生産量の増加（76万トン→108万トン [平成30年度→令和12年度まで]）
- 大麦・はだか麦生産量の増加（17万トン→23万トン [平成30年度→令和12年度まで]）
- 大豆生産量の増加（21万トン→34万トン [平成30年度→令和12年度まで]）

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

### 1. 麦・大豆等水田農業の生産体制強化

水田麦・大豆産地生産性向上事業

100 (100) 百万円

【令和3年度補正予算】2,148百万円

団地化の推進と営農技術の新規導入と併せて農業支援サービス等も活用した省力化の推進により、生産性の向上や環境に配慮した営農に向けて技術の新規導入を図る先進的な麦・大豆産地の取組に対し、ソフト・ハード両面から支援します。

### 2. 需要に応える供給の実現と国産使用拡大

#### ① 麦・大豆保管施設整備事業

【令和3年度補正予算】900百万円

国産麦・大豆の安定供給に向けた保管施設の整備や、保管施設の整備と一体的に行う処理加工施設の整備を支援します。

#### ② 麦類供給円滑化推進事業

【令和3年度補正予算】132百万円

国産麦の供給を円滑化するための一時保管を通じた安定供給体制の構築を支援します。

#### ③ 麦・大豆利用拡大推進事業

【令和3年度補正予算】69百万円

国産麦・大豆の利用拡大に向け、商品開発、マッチング等を支援します。

#### (関連事業)

戦略作物生産拡大支援事業

87 (97) 百万円の内数

農地耕作条件改善事業

24,790 (24,790) 百万円の内数

スマート農業の総合推進対策のうちデータ駆動型農業の実践・展開支援事業

173 (173) 百万円の内数

## <事業の流れ>



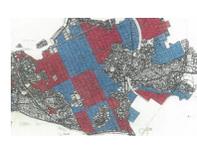
【お問い合わせ先】

### 1. 麦・大豆等水田農業の生産体制強化

団地化の推進

営農技術の導入  
・畑地化実証支援

施設整備・機械導入



団地化推進に向けた話し合い等の必要経費を支援（定額）

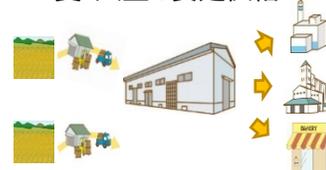
営農技術の導入や畑地化に向けた栽培実証を支援（定額）

生産性向上に必要な施設・機械導入等を支援（1/2以内）

### 2. 需要に応える供給の実現と国産使用拡大

麦・大豆の安定供給

麦・大豆の利用拡大



保管施設の整備に向けた支援（1/2以内）

国産麦・大豆の商品開発等を支援（定額、1/2以内）

(1、2①③ (大豆) の事業) 農産局穀物課 (03-6744-2108)  
(2②③ (麦) の事業) 貿易業務課 (03-6744-9531)

# 麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト 執行状況（2月7日現在）

- 麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクトについて、令和2年度補正・3年度当初予算実施分で予算額61億円に対し、約32億円の要望があった。
- 令和3年度補正予算として31.5億円を措置しており、現在、要望調査等を実施しているところ。

## <令和2年度補正・3年度当初予算実施分における事業ごとの執行状況>

事業名	概要	交付決定額	予算額 ※括弧内は予算額に対して 交付決定額が占める割合
①水田麦・大豆産地生産性向上事業	団地化の推進・営農技術の導入に取り組む産地をソフト・ハード両面で支援	21.9億円	48億円（46%）
②麦・大豆保管施設整備事業	国産麦・大豆の安定供給に向けた保管施設整備を支援	8.2億円	10億円（82%）
③麦類供給円滑化推進事業	国産麦の一時保管、安定供給体制の構築を支援	1.3億円	2.6億円（50%）
④麦類利用拡大推進事業	国産麦の利用拡大に向けた商品開発、マッチング等を支援	0.5億円	0.5億（100%）
合 計		31.9億円	61億円（52%）

※ ①水田麦・大豆産地生産性向上事業については都道府県を通じた要望調査、その他3事業については公募を実施。